

# 10月に創業30周年を迎えます

社会医療法人 耕和会 理事長 迫田 耕一郎  
 社会福祉法人 耕和会 理事長



医療法人 耕和会は平成 29 年 10 月 2 日に創業 30 周年を迎えます。礎を築いて頂いた創成期の職員の皆様、多大なご支援を賜った多くの関係者の皆様、そして心を育んで頂いた故郷の皆様に深く感謝を申し上げます。耕和会は 4 月から社会医療法人として新たな一里塚へ向かって出立致しました。この節目に各事業所と部署リーダーは分担して 30 周年記念誌を編纂しました。活動実績の総括と課題の抽出です。将来世代が今後の方向性について考察を加えて頂ければ幸いです。皆様にご笑覧賜れば幸いです。

耕和会の使命は医療と看護と介護です。病気や障害を抱える人の苦しみを和らげることです。それに命をいきることです。人間の欲求は果てしないものです。生理的欲求や安全でありたいという欲求は勿論、社会的欲求や尊厳そして自己実現をしたいという欲求もあります。五感が発達した人間の肉体と心は意識し、像を思い浮かべ求めるものが得られないと苦しみます。愛するものとの離別にも憎いものと会って暮らさなければならぬときも苦しみます。病や障害や老いはそれに拍車をかけます。愛しい人を護り幸せになろうと働いている私たちですがこの世は流転の四苦八苦の旅のようです。

故郷は「飲めて食えて少し遊べればよい」と育ててくれました。紫映える先祖のお墓も開聞岳も白雲なびく大空に微笑んでいます。私たちの命は先祖から父母、子供、孫へとリレーされたものです。幼くして召された命は使命を全うしたからでしょうか。100歳を超えて生かされる命は心を入れ替えよと生かされているのでしょうか。そんな苦しみはどうすれば和らぐのでしょうか。「この世に生んでくれてありがとう」「この世に生まれて幸せだった」とお互いが目と目で合図する、そんな命のバトンタッチも考えなければなりません。

私達の職場は命の理由を学ぶ最適の現場です。耕和会の事業所は其々に専門的役割を担い「自分だったらどう処遇されたいか」を念頭においています。迫田病院は昭和 6 年 10 月 2 日に医療とリハビリを担おうと開院しました。サンヒルきよたけは平成 7 年 6 月にハピリと介護を担おうと開設されました。GH 太陽の丘は平成 14 年に認知症に対応しようと開設されました。社会医療法人 耕和会と兄弟組織である城ヶ崎小戸の家は平成 23 年に開設され介護と看取りを担おうと社会福祉法人 耕和会により開設されました。ただ専門分野は単独で命題を完結することは出来ません。隙間を埋める連携と協働が必要です。在宅支援センターは病院や法人外施設や訪問診察・訪問看護と連携し在宅療養をマネージメントします。医療連携室は医療や介護が継続的に施されるよう地域の医療機関や介護施設と連携しています。地域包括支援センターは宮崎市の委嘱事業ですが民生委員や自治会や行政と協働し生活苦や虐待に対応しています。公民館では定期的に保健や衛生に関する啓蒙活動を行っています。課題は在宅総合センター会議に諮ります。医療法人 耕和会は法人内資源と地域資源を活用して総合診療を目指しています。耕和会は和を耕すと書きます。耕一郎の耕、妻の美和子の和です。朗らかに和が耕せれば幸いです。

私たちの合言葉は「鬼手仏心」です。同志は「自分だったらどう処遇されたいか」を念頭において「幸せに欠損する部分の穴埋め」を工夫しています。鬼手とは医療の技術です。仏心とは慈悲の心です。医療の技術は鬼の手のようなものです。手術で体を傷つけ検査や採血やリハビリで苦痛を与えます。抗がん剤や人工呼吸器、胃瘻はどうでしょう。治る病は幸いです。しかし治らない末期ガンや難病もあります。老化や認知症はいかがでしょう。その苦しみを患者さんに学び慈しみの心を培うのです。鬼手仏心に集う同志は駒のように回ります。逆風でもヨットのようにバランスを保ち前に進みます。帆が強風や荒波で破れたら修復しながら改革を試みます。しかし急迫は事を破ります。目に見えないストレスを職員に与えます。事を成すのは寧耐(ねいたい)：落ち着いて、耐え忍ぶ)です。仕事に必要な技術や能力そして情熱を活かすのは考え方です。ポジティブな考え方が

必要です。対立する考え方のどちらか一方を安易に選択してはなりません。飽くなき討論を行い第 3 の案を導き出そうとする姿勢が求められます。相乗効果を生みだすべく模索するのです。それがベクトルを合成する力であると信じています。

耕和会には約 360 名の職員がいます。様々な悩みを抱えて働いています。家庭のことは勿論、患者さんやご家族とのトラブル、職員同士のトラブル、意見の行き違い、パワハラやセクハラも有ります。それは鬱状態や職場の適応障害を招きます。それを緩和しようと私たちは各部署にポスターを掲示しました。「傾聴しあおう。観察しあおう。声掛けをしよう。感謝しあって許しあおう。微笑みは最高のお化粧です。」というものです。皆で作成しました。諸塚村にはクヌギの木で作ったお地蔵さんがあります。クヌギという字は木へんに楽と書きます。苦を抜いて楽にしてくださいと言う願いが込められています。

耕和会には背筋の美しい人材が育っています。夢と目標を兼ね携えフィクションを具現化する力を携えています。人との出会いを大切にボランティアに積極的に参加しています。チャンスを見逃しません。感動する心を携え絶えず環境を変えようと試みています。トップと危機を共有し諫言してくれます。ご両親や同志に感謝を忘れません。小さなトリムタブが大きな舵を動かすのだ、1人一人が一隅を照らすのだと励んでいます。潜在的内部留保を高めてくれる参謀たちです。彼らの声に耳を傾けその長所を活用しようと念じています。事業づくりは人づくりです。人づくりは戦場であわてない準備と念じています。

大将は一人では何もできません。惚れてくれる家来が必要です。家来は大将の欠点を見えています。だから決して大将を敬っていないし恐れてもいません。好いてもいないし親しんでいるところが憎み疎んじ軽蔑しています。徳川家康は家来を近づけても遠ざけても油断をさせてもならない。物や金でつないでもならない。大将は絶えず勉強をして礼儀をわきまえよ、家来にひもじい思いをさせてはならないと戒めています。容易ではありません。

医療経営は年ごとに厳しさを増しています。経営は日本経済や国策に左右されます。経済基盤を安定させなければなりません。対応策の一環として耕和会は平成 22 年に特定医療法人化、さらに平成 29 年 4 月に社会医療法人化しました。これは租税対策で顕在的内部留保を高めるためです。次世代へのバトンタッチに欠かせないものです。医療法人再編も念頭におくべき課題です。

事業は継続したものと廃止したものとがあります。ニーズがあると判断した事業は継続し競合が大きいと判断した事業は廃止しました。法人外事業所への委託と連携で賄っています。国策は実験的で経済を優先する非情なものです。帳尻が合わなければ梯子を外します。盲目的依存は大きなリスクです。継続した事業の一つに院内託児所があります。看護師獲得の目的で始まりましたが図らずも少子化時代の国策「男女協働参画事業」の先駆けになりました。子育て支援やワークライフバランスの推進に役立っています。平成 28 年 10 月にその実績が認められ県内病院で初めて「事業所内小規模保育園」として認可され、その「ほほえみ保育園」の累積赤字が解消されそうです。

最後に忘れられない恩師や先達の言葉を紹介させていただきます。

- 「恩を忘れたら事は成せない」チャーチル
- 「人を信じても仕事を信じるな」故) 日高善忠 (初代事務局長)
- 「出番はいつか来る 好きなことを続けよ」故) 辻泰邦 (長崎大学 1 外科教授)
- 「鬼手仏心」故) 富田正雄 (宮崎大学 2 外科・初代教授)
- 「名医であるより良医であれ」故) 古賀保範 (宮崎大学 2 外科・2 代教授)
- 「短所を論うな 良い遺伝子を伸ばそう」柴田紘一郎 (サンヒルきよたけ施設長・宮崎大学地域医療講座初代教授)
- 「心の良い人を雇う」メイヨークリニック

伏して皆さまに益々のご支援を賜りますようお願い申しあげ次第です。皆様の心に安らぎが宿り益々良いお仕事になされますように念じながら 30 周年の御礼とさせていただきます。